

(こくさいか山口 2003年7→9月号掲載記事)

～コンビニはあるけど 酒屋がない～

下関市総合政策部国際交流課
(釜山広域市派遣職員)
石田 朋彦

最近韓国は大型スーパーが各地域に建てられ、中には24時間営業の大型スーパーなるものまで登場しています。一段と便利になる一方、お酒を飲むのが好きな韓国人々、酒屋があるのかなあ？ ふと小さな疑問がわき、町の中を探すのですがこれが見当たらない。今ではコンビニやスーパーにお酒コーナーがあるので買うのには困りませんが、それまでは一体どうしていたのか韓国の方に尋ねた処、60年代までは日本と似たような酒屋があったようですが、外食(外飲)が主流の韓国では、いつの間にかなくなったとの話でした。(ちなみに、酒屋という言葉はないそうです。)

ところで、韓国は携帯電話を利用する人が多くなり、だんだん市内から公衆電話が消えて無くなる傾向にあるように思えます。やはり、韓国も中学生から携帯を持つ時代に突入しています。今回はこの携帯電話についてちょっとお話しします。

日本は着メロなるものがあり自分の好きな呼び出し音を選択出来るのですが、韓国は一步進んでいて電話を掛けた相手に自分が出るまでの間、自分の好きな音楽を流すサービス(韓国ではカラーリングと呼びます)があります。結構面白いサービスですけど、日本から始めて掛けた人はいったい何処に掛かったのか、びっくりする方もなかにはいらっしゃいます。自己主張の強い韓国、これも自分を表現する方法なのではないでしょうか？ 携帯の電話番号も使用されていない限り指定することも可能です。家と携帯の下4桁の番号を同じにすることも可能です。但し解約された電話番号も再使用するため、よく前の人の知り合いが掛けてきて閉口することもしばしばです。サービス内容で面白いのは、カップルホンなるものがあり、夜12時から朝6時まで定額料金で掛け放題、これがあれば遠距離恋愛だって電話料金を気にしなくていいのですから、若いカップルにはお勧めのサービスかもしれませんね。しかし、最新型カメラ付携帯電話はまだ40～50万Won(4万～5万円)もするのも現状です。こうしたサービスは結構充実しているのですが、携帯を使いインターネットにアクセスするシステム・サービス内容はいまだに開発途上のような気がします。これには携帯本体の性能向上がかかせないものではないでしょうか、こうしたシステムや本体を是非韓国に輸出して欲しいと思う今日この頃です。お互いに無いものを探し、貿易につなげて欲しいものです。